「全表連新聞」コメント掲載報告

全国表具経師内装組合連合会発行の「全表連新聞」（令和３年２月号）にて掲載の「福島県南相馬市岩屋寺訪問記」の中で、弊社代表長野孝豊のコメントが掲載されました。

体験レポート二題

一般社団法人東京表具内装経師文化協会
会員　溝渕　貴久氏

福島県南相馬市 岩屋寺訪問記

令和２年12月26日（土）訪問。昨年はコロナ禍で１００年に一度という未曾有の年であった。

さかのぼる10年前、２０１１年３月11日に発生した東北地方太平洋沖地震、いわゆる東日本大震災を皆様もきっと記憶に定かであろう。

私が訪問した岩屋寺さんは福島第一原発より30キロ圏内、22キロ程度の位置で、お寺の数キロが20キロ圏内の進入禁止ラインとなったそうだ。いわき方向から車で南相馬市に向かった私が見たのは、未だフェンスで封鎖され、進入禁止道路、家屋や店舗であった。

岩屋寺星見住職さんは当時を振りかえり毎日死者を弔う葬儀に出かけたと話していた。非常に生々しい体験を語っていた住職さんであった。

今回訪問した建築中の慈照殿は、東日本大震災の復興と未来の平安を祈念し、さらに千年後も残る建築物を建立するプロジェクトとして、星見住職さんが、各地を訪問して建材や建立プロジェクトに賛同してくれる職人をさがし建築が進んでいる。

大阪府大阪市にある㈱ビドーに、慈照殿の建具の引手に御神木から制作を依頼し、納品された。

建具そのものは令和三年の落成に間に合うかわからないと話されたが、納品された引手の実物を拝見し住職さんのプロジェクトにかける情熱を感じる事ができた。

引手を制作した㈱ビドー長野孝豊代表にもコメントをいただいた。同社が展開している「ｗａｔｏｍｏｓｕ（ワトモス）」は「和」の心を住空間に灯す事業活動。「和」は古来より心を和ませ、人々を産霊むすぶ（結）、新たな価値を作り出す尊いものである。復興を願う星見住職のこだわりが内装仕上げに結びつき、その建築に、㈱ビドーが関わる事は大変喜びである。「ビドー御神木」で検索していただいて制作ドキュメント～御神木から引手を作る～ビドーの記録動画を是非見ていただきたい。